第１回日本気象学会ジュニアセッション開催報告

教育と普及委員会・講演企画委員会

１．はじめに

日本気象学会として初の取り組みとなった「第１回日本気象学会ジュニアセッション（ジュニアセッション2015）」は，2015年度春季大会（つくば）の大会第３日目に一般会員と同じポスター会場において開催された．この催しの趣旨および企画概要などについては，「天気」Vol.61，No.12，p.1035に記載されているとおりである．趣旨はジュニア世代に発表の場を提供するという公益目的の社会貢献事業であるが，同世代間に気象学探求の裾野を広げる狙いもあり，今後毎年開催される方針である．

第１図　発表を終えて；発表者及び指導教諭．

学会の外部への開催告知（発表者募集）は，全国都道府県の教育委員会に対して高校等への通知を依頼する一方，学会ホームページに掲載した．また，各委員の知り合いの学校教師に個別に案内したり各種メーリングリストを通じてPRしたりもした．

こうしたはたらきかけに対し，秋田，栃木，埼玉，茨城，東京，神奈川，愛知，沖縄の各都県に所在する高校から応募があり，また，都内の中学校からの応募も１校あった．高校の殆どがSSH（Super Science High-school）指定校であり，私学も２校あった．なお，応募には至らなかったものの，他に２校からの問い合わせなどがあった．

結果として10校から17件の応募があり，予稿審査を経てのポスターセッションとなった．発表件数は当初目標とした20件よりやや少なかったが，2006年度に「地球惑星科学連合」が開始したジュニアセッションでの気象関係発表件数が初年度９件，最も多かった年度（2009，2010）でも17件であったことと比較すると，ますまずの応募件数であったと言えよう．

２．当日の様相など

当日来場した生徒数52名，引率教師や付き添い人など22名（うち１名は発表校以外の高校教員）を含めて，ジュニア関係としては総勢74名の来場となった（第１図）．

セッション時間は11:30から13:30までの２時間であった．発表内容は高校の場合，さすがはSSHと言うべく，いずれも高校生の域を超えたレベルの高いものであった．結構なことではあるが，その反面，これほどレベルが高いと部活などで気象の調査・研究を行っている生徒たちにとっては敷居が高くなってしまうのではないか，と心配する向きもあった（SSHでは実践的調査研究活動が授業の一環として行われている）．一方，中学生の発表は３件とも年代相応の題材と内容であったが，それぞれに深みが感じられ今後の発展が期待される内容であった．

会場へは開始早々聴講者が多数詰めかけた．通常より広めに設定されたセッションスペースだったにもかかわらず，通るのも困難なほどに混雑した．新野理事長はじめ多くの名だたる研究者が続々来場し，生徒たちの熱心な発表に耳を傾け，質疑・コメントし，また

第２図　ジュニアを指導する新野理事長．

第３図　発表認定証交付；田中大会委員長から発表者へ．

指導する場面が随所で見られた（第２図）．

ポスターはそれぞれよく工夫されており，丁寧に手書きされたものも散見された．また，補足資料をノートパソコンで提示したり，来場者にアンケート調査したりする発表者グループもあった．通常のポスターセッションでは見かけない情景である．

13:30から大会の目玉の一つであるシンポジウムが開催される関係もあって，その10分前頃から会場全般の聴講者はまばらになっていったが，ジュニアの周りの人だかりは最後まで続いた．

「会場の雰囲気がいつもとまるで違った．若い人が沢山集まるのはいいものだね」とは，ある会員から寄せられた感想である．生徒たちの明るく元気はつらつとしたオーラが会場全体に及んでいた感がある．因みに，この日参加した女子生徒は17名で，参加生徒数の３割強を占めていた．

３．参加特典について

気象学会としてジュニアセッションでの発表に対しては優劣評価や授賞は行わず，代わりに共同研究者を含む発表者全員に対して「発表認定証」を交付することとしている（第３図）．奨励のつもりで優劣評価や授賞を行えば，それを目当てに過当な発表競争が始まり，本来の趣旨が損なわれることを危惧しての措置である．

今回の認定証発行数は49通に及んだ．これを励みに気象に親しんでもらうことを期待したい．

その他の特典として，大会の全日程をとおして全てのセッション，シンポジウム，公開気象講演会等の聴講を可としたが，日程の都合からか，これらの会場への出入りはごく一部にとどまったようである．

ジュニアセッション終了後，おまけの参加特典として宇宙航空研究開発機構の広報展示館の見学会を行った．これには引率教師なども含め42名が参加した．徒歩移動約30分の遠足となったが，参加者の様子からは楽しく充実した一日の締め括りとなったことが窺われた．

４．アンケート調査結果

ジュニアセッション2015に来場した生徒および引率教師らに対して即日回答のアンケート調査を行い，高い回収率を得た．その結果を総括すると，全般的に好評を博したことが窺われた．

特に，多くの気象の専門家から数々のコメントや指導を受けたことについては発表者にとって大きな喜びとなり，今後への意欲に繋がったことが見て取れた．「発表は楽しい」「機会があればまたやりたい」との回答が大多数を占めたほか，「あっという間の２時間だった」「参加できて嬉しい」とする声もあった．

他校の発表は刺激になったとのことだが，発表にあたった生徒からは他校の発表を聴講する時間的余裕がなかったことについての不満の声もあがった．

引率教師らにとっても専門家による直接の指導などは頗るありがたかったようで，全員がこのことを高く評価している．中には，地域で指導してくれる専門家をコーディネートするしくみを作ってほしい，との声もあった．

予稿集については全員が必要またはあったほうがよいと回答した．これによって他校の発表概要を知ることができたとのコメントもあった．

発表認定証については必要またはあったほうがよいとする回答が大多数を占めた．研究成果を優劣評価し

たり授賞したりしないことについての不満はなく，むしろ公平でよいとする所見もあった．

年間の開催回数については春季大会時だけでよいとする回答が最も多かったが，生徒の中には，秋季大会時にも，との回答が少なからずあった．ただし，調査研究に要した期間については約１年あるいは１年以上かかった，とするものが多かった．

５．反省および今後への改善・反映事項など

今回の反省点から次回に反映すべき点は多々ある．以下，それらのうち主要なものについて記しておきたい．

(1) 実行組織について

今回は講演企画委員会および実務を主担当した教育と普及委員会とで委員を出し合い，「ジュニアセッション世話人会」を組織し諸準備を行った．この世話人会の最大のパートナーは大会実行委員会であったが，世話人会のメンバーがたまたま大会実行委員会の枢要なメンバーであったことから，両者の間の連携は些事に亘り極めて円滑に進めることができた．

次回の実行組織編成にあたっては，是非とも大会実行委員会からのメンバー人選をお願いしたい．

(2) セッション参加募集について

最も大きな反省点としては，開催案内が十分行き届かなかったと見られる点が指摘される．対象とする学校に直接案内する方法について検討と工夫が必要である．

(3) 応募締め切り日について

応募締め切り日を学会の発表申し込み期限に合わせることなく，新年度始めの４月上旬とした．これは教員の異動に配慮してのことである．適切な措置であったことがアンケート調査によって確認できた．

(4) 事前審査基準について

提出された予稿を基に事前審査を行った．今回は件数が17件と少なかったことから，応募者資格（高校生，高専生，中学生）および発表内容のジャンル（気象または大気科学の範疇）に適合しているかどうかということのみが審査基準となり，全件がこの審査に合格した．今後応募件数が増えることが十分に想定されることから，発表可能件数の上限を設定するほか，この上限を超えた場合の審査基準（件数絞込み基準）をきちんと設定しておく必要があろう．

(5) 予稿集について

ジュニア予稿集を学会予稿集とは別立てで作成し，シンポジウム資料同様1000部をカラー印刷して大会来場者全員に配布した．費用はそれなりに掛かったが，これに見合う以上の効果はあったとみられる．

(6) 控え室について

ジュニアセッション参加者の行動は学校単位での団体行動となる．会場にはポスターセッション参加者用の控え席が設けられたが，大会実行委員会の機転によりジュニア用として約70席の優先席がまとまった配置で確保された．この席で冒頭の委員長挨拶や細部の現場説明などを行い，さらには認定証交付式を簡易形式で挙行した．一方，生徒らはこの席で食事を採ったりアンケート調査に応じたりした．

ジュニアセッションに関しては，こうしたまとまった形での控え席（室）が不可欠である．次回は100人規模のまとまった席が必要になろう．

(7) 実施マニュアル（手順書）について

上述したほかにも，こまごまとした改善点が多々ある．それらを含め次回に反映すべく，「ジュニアセッション実施マニュアル（手順書）」を作成し遺漏なきを図るとともに今後の発展を図りたい．

６．おわりに

ジュニアセッション2015は初回ながら盛況かつ成功裡に終了することができた．こうした成果は前述したように，大会実行委員会による綿密で強力なバックアップがあってもたらされた．また，参加者の募集等に関しては日本気象予報士会の協力も仰いだ．末筆ながらこの場を借りて謝意を表明したい．

来年度の春季大会における第２回ジュニアセッションの開催を予期し，なるべく早期に準備にとりかかることとする．

なお，この企画の開催計画，発表予稿，開催当日の様子（スナップ写真），アンケート調査集計結果などを気象学会ホームページに掲載したので参照されたい．